第 2017-07 号

恵みと真理のニュース

2017 年 2 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様の恵みで警察官の夢をかなえました
私と共にして助けてくださった神様に感謝します

私は昨年12月警察公務員の試験に最終合格して現在は教育を受けている青年です。今までこの証を通して多くの恵みを受けて信仰生活に大きい励ましになりました。このように私が証をするように大きい愛を受けて心に感動をくださった神様に感謝します。

私は真実な親の影響で幼いころから教会に通いイエス様を信じて神様に礼拝をする生活をしました。特に中高等学校には他の人より多く奉仕をしました。先生より早く教会に来て礼拝の準備をしました。そんな私を見ながら教役者と先生から多く褒められました。

青少年の頃は教会で多くの奉仕をしましたが、恥ずかしいのが救われた恵みに対する感激とイエス様の愛と感謝する心より教役者と大人に認められたくて熱心に奉仕しました。習慣のように教会に来て礼拝に参与して、主を喜ばせる純粋な心と熱情ではなく私の喜びと満足を求めたい生活をしたのです。

高校3年生になって大学進学のため祈って熱心に勉強しましたが、受験の結果が悪かったです。自分が入りたくない学校に入学して一時期、神様に恨みと不平をしました。しかし、この時期が結果的に有益だったし福になりました。私の足りないのを悟って完全に神様を信頼したからです。神様がくださる神霊な慰めと励ましを受けて信仰が強くなりました。聖歌隊でこれから自分の喜びと満足ではなく完全に主の喜びのため献身するようになりました。軍服務を終えて、聖歌隊で奉仕しながら私の進路を悩んで祈っている間神様が警察官の夢を下さって夢を叶えるため勉強をはじめました。勉強をする途中で先輩から"なぜ、警察官になりたいのか？と聞かれました。"福音を伝える者と用いられるため警察官になりたい。と答えました。しかし、その答えが私の心にかかりました。真心の答えではなくて先輩によく見えるため答えたと思いました。その時、聖書と福音に関して多く、深く知りたい要求が出来ました。しかし、教会に外の友達に導かれ聖書勉強をする集いに参席しました。行ってみたら聖書解説もおかしく聖徒達を紛らわしくする所でした。私たち教会の教役者と相談してすぐ行かなかったです。正しくて健康な信仰生活をするためには青年期の活発な知的な好奇心と感情をよく節制する必要もあることを悟りました。恵みと真理教会の全ての礼拝に参席すること、当会長の牧師が伝えてくださる主日礼拝の御言葉と平日礼拝、聖書講解を休まずに聞くことが素晴らしい聖書勉強であることを知るようになりました。また、教会の内でも聖書学校や聖書大学、大学院まで体系的に平信徒の聖書勉強の教育課程があることを知るようになりました。

全ての礼拝に熱心に参席して説教の御言葉を聞くうちに"神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。（ヨハネの福音書3：16）イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。（ヨハネによる福音書14：6）　ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」（使徒言行録4：12）と御言葉の意味が深く悟られ、恵みと真理で充満な信仰生活をするようになりました。この御言葉が説教を聴くときことに私の心を感動させ私の涙で喜びと感謝の涙が止まらないです。　若い青年教師が足りない中高等部で移して奉仕を始めました。教師として奉仕をすると周りの人々は試験に合格できるのかと心配しました。しかし、試験日が近づいて寄宿学院に入っても礼拝には休まないように努力して主日には、必ず教会に来て熱心に教師の職分を担えるように頑張りました。そして、ついに12月に合格の喜びを味わいました。部署の先生と学生まで私のため祈ってくださって受験の当日祈り会で多くの受験生の親と教区の聖徒達も共に私のため祈ってくださいました。合格するのが難しい点数でしたが、神様は祈りに答えてくださいました。神様はいつも私と共にしてくださり、万事が益となるように共に働くようにしてくださいました。

私が警察の夢を持った時には単純に安定的な職業を得るためでしたが、今はその夢が神様のビジョンであることを悟りました、真で国と国民のための警察官、神様が導いてくださる所でクリスチャンの良い影響を与えて福音を伝える警察官になろうとしています。今、警察学校の中で私のような多くの訓練生がいます。私に神様は伝道の熱心さと大胆さを与えてくださって正義と使命感に真実な警察官になって訓練生に熱心に福音を伝えています。

私が仕える中高等部の学生の中で私を見て警察官の夢をかなえる学生もいるので彼らにモデルになるため頑張っています。そして、真実な信仰で神様に礼拝して熱心に奉仕を捧げる学生を見る時に神様に感謝しながら教師として使命感がもっと充満になります。教師と先輩としてこの御言葉を話したいです。"どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。"（フィリピの信徒への手紙4：6）神様を信頼して畏れて祈りの生活をすると神様は私たちの人生を責任してくださいます。人生の道でいつも共にして助けてくださいます。

この御言葉を確信をもって話せるように恵みと愛を与えてくださった神様に感謝を捧げます。今も私と共におられ様々な形で助けてくださる神様にすべての栄光を捧げます。

［信仰コラム］

三つの理屈に合わない話

"...悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。"（コリントの信徒への手紙二 6:8～10）

理屈に合わない話とは、とんでもない話あるいは話にならないことを指します。ある事実に対する主張や論理が一時は"とんでもない話"に扱われたが、後日にはそれが真実だと明らかになった事が数多くあります。自然科学分野ではその例を良く探すことができます。古代の人々は地球が平たいと思って 16 世紀までは人々が天動説を信じました。しかし、ガリレオ·ガリレイが 1609 年に望遠鏡を製作して天体を観測し、自動説を立証しました。聖書のヨブ記 26 章 7 節には神様が"北の天を空間に張り、／地を何もない所に掛けられる。"と記録されて地球が宇宙の空間で引力により一定な位置にあることを啓示しています。ヨブ記はガリレイが自動説を発表する 3600 年前に記録されました。三つの理屈に合わない話に関して調べてみましょう。

第一は、キリスト教人ではない人々の"理屈に合わない話"があります。

キリスト教人ではない人々は聖書で天地創造と各種の奇跡そして、人類の救いに関する記録を"理屈に合わない話"に扱います。聖書は科学書籍ではないがしかし、聖書に非科学的な内容はありません。非科学的だと扱っていたことが科学の発展によって科学的に説明されています。聖書の記録を"理屈に合わない話"だと扱う人々はいつかは彼らの言葉が"理屈に合わない話"であることを悟るでしょう。その中でも深刻な問題は彼らが聖書に記録された創造主である神様を知らずに救い主イエスキリストを信じないと最後の審判を受け滅びるということです。このような事実は否定したり拒否するとして解決されることではありません。従って、聖徒達はこのような人々を哀れんで彼らが却って"とんでもない話"をしているということを悟るように励んで伝道すべきです。キリスト教人ではない人々の福音を卑下する言葉が実は"とんでもない話"であります。

第二は、自称キリスト教人だと言うが、実状はそうではない人々の"理屈に合わない話"があります。

"聖書は聖霊様に感じた人々が神様によって記録したことなのでその全てのお言葉が真実である。""イエスキリストだけが救い主である。"という真理を認めないで自分は救いを得たと言う話は"理屈に合わない話"です。"聖書に記録されたことをそのまま信じてはならない。"と話す人は神学大学の教授だとしても誠なキリスト人ではありません。彼はエセキリスト人であり、彼が教えて判断する言葉が却って"理屈に合わない話"です。

第三は、キリストの中にいる自分の実状に対する認識と自覚が不足な聖徒達の"理屈に合わない話"があります。

救いを得て神様の子供になり、天国市民になった聖徒が"私は不幸だ。私は貧しい。私は失敗者だ。私には望みがない。"と話すとしたらこれは"理屈に合わない話"です。幸いな心がキリスト人になるようにすることができず、多くの財物がキリスト人になるようにすることができません。成功がキリスト人になるようにすることができず、望みを持つことがキリスト人になるようにすることができません。しかし、キリストを信じてキリストの中にあるようになると誠な幸福者になり誠な富を所有した者になります。誠な勝利を獲得した者になり、誠な望みを持った者になります。この世で経験する都合がキリストの中で変化されたキリスト人の本質と実状に影響を及ぼすことができません。キリストの中にいる自分の実状に合わない話は全てが"理屈に合わない話"であります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

叫んで祈らなければならない理由

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

祈祷は神様を向けて自分が望むことを申し上げるのです。 自分だけで当たる要求があって、他人にあたる要求があります。 多くの人や国家にあたる要求もあります。 短期間に回答されるように願うのがあって、徐々にあるいは後日いつでも回答されるように願うのがあります。ところで私たちが分からなければならないことは自分が要求したそのまま回答されなくても祈祷は無駄ではないというのです。 重言復言の祈祷ではない本気から出る祈祷、信仰から祈祷はいつも善良な結果を成すようになります。祈る人は神様の時に神様の方法と神様の思った通りに回答されることが最善の回答というのを確信しなければなりません。
神様は全知なさるので私たちが何を求める前にあるべきことがすべて分かるのにわざわざ私たちに祈りなさいとおっしゃる理由が何やらかと思う方々がいます。 この質問に対する答は簡単です。 “神様がそうするように決めた。” これがその返事です。 イエス様がおっしゃるのを “求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。 すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか。”（マタイによる福音書 7:7～11）としました。 神様は神様に求める者に最善の物でくださると約束しました。 そして祈る者に助けを施すと言いました。 祈る場合だけで制限されたのではないがどんな場合は祈るまで助けないという事実が聖書に明らかに記録されています。 聖書に記録された実在的な例をよく見ます。

先ずに、イスラエル子孫がエジプトから解放された歴史的事件をよく見ます。

アブラハムはイサクを生んでイサクはヤゴブを生みました。 ヤゴブは十二息子を生んだがその中に十一番目の息子がヨセフです。 ヨセフは神様の摂理でエジプトの総理になりました。ヨセフはエジプト王の許しを得て彼の父親と兄弟の家族を皆エジプトへ招待しました。 エジプト王は牧畜をするヤゴブの一族に一番適切なゴセン地を与えました。 それから歳月が経って何番にも世代が変わりました。 イスラエル子孫がエジプトに来た時は 70 余人であったが壮丁だけ 60 万人になるように盛んになりました。 老若男女をすべて合わせればおおよそ 200 万人がもっとなったはずです。 ところでヨセフが分からない王がエジプトを統治するようになってからイスラエル子孫は虐待にあいました。

日増しに虐待がひどくなったらついにはイスラエル民族の抹殺政策を立てて実行に移す具合になりました。 王が民に言い付けるのをイスラエル女人が男の子を生めばその子供をナイル川に投げて殺しなさいと言いました。
神様はアブラハムが神様の指示に従順して本土親戚を離れ去ってガルデアのウルとハランを去ってガナアン地で移住した時に次のようにおっしゃいました。 “時に主はアブラムに言われた、「あなたはよく心にとめておきなさい。あなたの子孫は他の国に旅びととなって、その人々に仕え、その人々は彼らを四百年の間、悩ますでしょう。しかし、わたしは彼らが仕えたその国民をさばきます。その後かれらは多くの財産を携えて出て来るでしょう。あなたは安らかに先祖のもとに行きます。そして高齢に達して葬られるでしょう。 四代目になって彼らはここに帰って来るでしょう。アモリびとの悪がまだ満ちないからです」。”（創世記 15:13～16）と言いました。 ところで 出エジプト記 12 章にすると “イスラエルの人々がエジプトに住んでいた間は、四百三十年であった。 四百三十年の終りとなって、ちょうどその日に、主の全軍はエジプトの国を出た。”（出エジプト記 12:40,41）と記録されました。 神様がアブラハムにおっしゃる時は 400 年だと言ったが、実際では 430 年でした。 30 年がもっと引き延びになりました。 その理由が何ですか? 出エジプト記 3 章にその理由が記録されています。 神様がモセにおっしゃいました。 “いまイスラエルの人々の叫びがわたしに届いた。わたしはまたエジプトびとが彼らをしえたげる、そのしえたげを見た。さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう」。”（出エジプト記 3:9,10） しました。 神様はイスラエル民が神様の救いをもらわなければならない場合にあるのかななのかを察したのではなく彼らが神様に救われると叫ぶことを察しました。 イスラエル子孫が神様の口約束を憶えてエジプトを立ち去るのを願いながら祈らなければならないのにそうしなかったからです。 ここで私たちが悟らなければならない要点はある場合には神様の約束があっても神様に求めなければならないという事実です。

次は、ヨシャパテ王の時にあった事件をよく見ます。

ヨシャパテ王がユダ国を統治する時あった事です。 当時にイスラエルは国土が南北に分断されて二つの王国が存在するようになりました。北は ‘イスラエル’ 南側は ‘ユダ’ と呼ばれました。 ヨシャパテはユダ国の王たちの中に 神様を敬い畏れる信仰が透徹して選定を施した王の中に属します。 ヨシャパテ王は北王国イスラエルがアラム国に奪われたギルルアッラモッ城を取り戻すのに同盟して参戦しました。しかし戦争の結果は惨敗でした。 ヨシャパテ王は九死一生で命を拾いました。 この戦争でイスラエルとユダの軍事力は多くの損傷を被るようになりました。 これにより国力が弱くなったすきまに乗じてモアブとアンモンとマオンそしてエドムが連合してユダ国を侵攻しました。ヨシャパテ王が恐ろしがって神様を向けて切に求める一方あらゆる全民に禁食するように公布しました。 民が神様の助けを切に求めようとユダすべての城からエルサレム聖殿に寄り集まりました。

ヨシャパテ王が聖殿の庭の前で民の中に立ってこんなに祈りました。 “彼らがわれわれに報いるところをごらんください。彼らは来て、あなたがわれわれに賜わったあなたの領地からわれわれを追い払おうとしています。われわれの神よ、あなたは彼らをさばかれないのですか。われわれはこのように攻めて来る大軍に当る力がなく、またいかになすべきかを知りません。ただ、あなたを仰ぎ望むのみです」 ”（歴代志下 20:11,12）. すると神様がレウィ人ヤハシエルに聖霊が臨むようになさって彼を通じて回答のメッセージをくださいました。 “ヤハジエルは言った、「ユダの人々、エルサレムの住民、およびヨシャパテ王よ、聞きなさい。主はあなたがたにこう仰せられる、『この大軍のために恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、主の戦いだからである。”（歴代志下 20:15）. このような回答のメッセージを受けたヨシャパテが身を曲げて顔を地につけたら全ユダとエルサレム住民もエホバの前に伏せて敬排しました。 民がかつて起きてドゴアらに出る時にヨシャパテ王が立って民に大きい音で頼みました。 “彼らは朝早く起きてテコアの野に出て行った。その出て行くとき、ヨシャパテは立って言った、「ユダの人々およびエルサレムの民よ、わたしに聞きなさい。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう」。”（歴代志下 20:20）. その後に民といっしょに議論して歌う者を選んで聖なる礼服を着せて軍隊の前で行って “主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない” と讃尿させました。
ユダ民がドゴア野原を向けて出発して讃尿し始める時に神様が奇妙で驚きべき事を行いました。神様が伏兵を置いて自中之乱が起らせました。伏兵によってアンモンとモアブ軍事がセイル山の居民を打って滅しました。 そしてアンモンとモアブ軍人が衝突を起きて互いに殺戮しました。 ユダ民が野原の望台に至って戦場を眺めたら地に皆が死骸だけでした。 ヨシャパテ王と民が行って見たら財物と衣服と宝物が多くて三日の間に運ばなければならないほどでした。四日目になる日、ユダ民がブラガの谷間に集まって神様を讃尿したしエルサレム神様の前にひいては感謝の礼拝を差し上げました。 危機に処しても神様に叫んで祈る民は亡びないです。祈祷をきく神様があわれんで思って仕事をしてくださるからです。

危機を危機で分からない民は亡びるしかないです。 危機が分かってからも祈らない民は神様の助けを得ることができないです。 神様は神様に叫んだイスラエル子孫をエジプトから救い出しました。 国家が危機に処した時神様に叫んだヨシャパテ王と民を神様が奇跡を施して助けました。 我が国の処した状況は神様の助けがなければ危機を脱することができないです。神様が私たちが祈祷で叫んで訴える音をきいて私たちをあわれんで思ってくださること信じます。 奇跡を施して勝利を得させてくださることを信じます。